

平成28年度 学校評価実施報告書

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた)自校の取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・すべての教科での、子どもが達成感や充実感を味わう言語活動の充実 ・京都市スタンダードをもとにした授業計画の充実 ・道徳の時間の学習に中心にした授業研究 ・めあて・発問・板書・ふりかえりの習慣化と充実	アンケート「話す・聞く・書く・読む」活動のようす アンケート「学習の見通し」 全国学力学習状況調査・ジョイントプログラムの結果分析
	家庭学習の習慣科	・学習予定表の充実 ・帯タイム・読書タイムの充実 ・家庭訪問などによる個別の働きかけ ・読書指導の充実	保護者アンケート「家庭学習の様子」教職員アンケート「家庭学習への働きかけ」子ども達の家庭学習や帯タイムでの学習の変容
	授業のユニバーサルデザイン化	・授業公開をとまなうユニバーサルデザインの実践研究 ・相互に授業公開・教室後悔するなどの学校現場におけるOJTの実施	児童アンケート「学習はよくわかっていくか」教職員アンケート「ユニバーサルデザインの実践」学級経営・教室や授業公開の様子
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・協働活動によるたてわり活動の充実 ・子どもの道徳性を引き出し広げる道徳の時間 ・道徳性の伸長を図る取組(掲示物・ハートフル集英) ・子どもに範を示す働きかけ	児童・保護者アンケート「あいさつ・ごみの後始末・整理整頓・時間を守る」教職員アンケート「範を示す行動について」たてわり活動についての反省
	みんなが楽しく過ごせる学級づくり	一人一人を大切に、学級経営の充実 学級の様子についての報告連絡相談の励行 クラスマネージメントシートやいじめアンケートの結果を活用した児童理解	クラスマネージメントシート・いじめアンケートの結果 アンケート「学校は楽しいですか」「誰に対しても仲良く過ごしていますか」「友達への注意」
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・早寝・早起き・朝ごはんをはじめとする基本的生活習慣の確立 保健だよりなどの情報発信を通した家庭への働きかけ 生活リズム調べに応じた健康相談	児童アンケート「早寝早起き朝ごはん」保護者アンケート「家庭での生活習慣」生活リズム調べ「早寝・早起き・朝ごはん」
	安全指導の充実	・登下校の安全指導の徹底 ・集団登校・町別さ集会についての指導 ・教職員による見守り ・学校からの情報発信	児童アンケート「家以外の安全」教職員アンケート「安全についての環境整備」「安全な生活の指導」集団登校・下校の様子
独自の項目	小中一貫教育の推進	・管理職・教務主任を中心とした連携会の実施 ・小中連携に基づく授業の実施 ・小中で共通の学校運営協議会・PTA組織 ・各校務分掌同士の連携	保護者アンケート「中学校との連携」「自由記述欄」PTA運営委員会や学校運営協議会での意見 中学校の学校評価結果



自己評価	
評価日	平成28年8月30日
評価者・組織	企画委員会・職員会議
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)
全国学力学習状況調査で、AB問題とともに全国平均を上回る。話す聞くについてのアンケートでは、80%の子どもが「聞くことについて」「できる」、60%の子どもが「話すことについて」「できる」と回答している。教職員アンケート「家庭学習や帯タイムの働きかけ」75%「できる」25%「あまりできていない」保護者アンケート「家庭学習に積極的に取り組む」48%「できる」52%「できていない」	・子ども同士の話し合い活動や言語活動が日常的に行われるようになったことが、子どもの学力向上につながっている。今後は、子どもが進んで問題解決に乗り出し、授業を通して達成感を味わうことが出来るような授業づくりが求められる。 ・家庭学習が定着し始め、教師から与えられた課題や宿題にしっかり取り組める子が多くなってきた。今後は、自分の課題を克服したり自分の個性を伸長したりできるような学習にも発展的に取り組めるようにしていきたい。 ・帯タイムの学習が毎日できるように校時変更したことで、スキル学習の時間を確保することが出来るようになった。今後は、子どもの学力が定着するように、帯タイムの質的な変容を求めていきたい。
児童アンケート「学習はよくわかっていくか」低学年94%「できる」高学年77%「できている」ユニバーサルデザインの授業をとまなう研修会の後、教室の座席配置や予定表の活用の仕方などを工夫する様子が見られる。	児童アンケート「学校は楽しい」低学年97%高学年93%「できている」「誰に対してもやさしく声をかけている」高学年70%でできている「友達への注意」高学年67%でできている
保護者アンケート「あいさつや言葉遣い」65%「できている」35%「できていない」たてわり活動については、なわとびなど決められた活動をするとうまく交流できるの、たてわり遊びも自分たちで考えて実施できるようにしていきたいという反省が見られた。	ほとんどの児童が、規則を守ることやいじめをしてはいけないということが大切であることを認識している。しかしながら、少人数で生活しているせいか、失敗を極端に恐れてしまう傾向がみられる。また、集団で生活することが出来るににくい場面や、当たり前のことを当たり前にするという生活様式が身に付きにくい子ども達も見られる。
児童アンケート「朝ごはん」高学年89%低学年93.8%「できている」「早寝早起き」高学年50%低学年64%「できている」長期休業後の生活リズム調べでは、生活リズムが乱れがちな子がいつも多かった。	朝は決まった時間に起き、朝食を食べながら登校するという規則正しい生活ができている。通学路の安全について十分に意識している子どもが多く、集団登校で声を掛け合っている様子も見られる。しかしながら、普段の生活の中で、軽はずみな行動が危険なことにつながってしまう場面も見受けられる。また、学校施設についても避難経路をもう一度確かめるなど、新たな目で危険はないか見直していく必要がある。
児童アンケート「安全」高学年93.8%「できている」29.3%適切な安全対策「保護者アンケート89.2%」でできている「集団登校はうまくできているグループが多い。	朝は決まった時間に起き、朝食を食べながら登校するという規則正しい生活ができている。通学路の安全について十分に意識している子どもが多く、集団登校で声を掛け合っている様子も見られる。しかしながら、普段の生活の中で、軽はずみな行動が危険なことにつながってしまう場面も見受けられる。また、学校施設についても避難経路をもう一度確かめるなど、新たな目で危険はないか見直していく必要がある。
保護者アンケート「中学校との連携」90%重要「できている」92% 自由記述欄に「小中連携の様子は保護者からなかなかわかりにくい」との声あり	小中で普段から連携をしていることが望まれる。それは、保護者にはなかなか伝わりにくいことではあっても、実質的な小中連携であると考えられる。
管理職・教務主任を中心とした連携、小中各分掌担当者同士の連携、小中共同の部活動・PTA活動などを心がけていく。また、その連携の様子をホームページに記載するなどして発信し、地域・保護者にも認識してもらえようとする。	管理職・教務主任にとどまらず、各分掌担当者同士の連携、小中共同の部活動・PTA活動などを心がけていく。また、その連携の様子をホームページに記載するなどして発信し、地域・保護者にも認識してもらえようとする。



学校関係者評価	
評価日	平成28年9月27日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
授業改善は善い方向に進んでいる。自分の考えを表現できる授業を望む。アンケート結果が、「よくできている」「出来ていない」の両極に分かれていることについて考察を進めていきたい。	小集団による話し合い活動でも表現できない子どもに対して、グループ作りを工夫するなどの配慮が必要。
高雄の子ども達はクラス替えがないため、自分を変える機会が少ない。そのため、自分の良いところを伸ばしたり、苦手を克服したりする学習に取り組みにくいのではないかと感じる。	近隣の小学校と連携したり、高雄校を卒業した先輩の話を聞く機会を設けたりして、自分を変えようとするきっかけを子ども自身がとらえることが出来るような働きかけをしてはどうか。
全ての子どもたちが参加できる授業づくりや学校の仕組み作りは大いに賛成するところであり、積極的に取り組んでほしいと願う。	学校の施設運営上で、整備をしていかなければならないところについては、地域も積極的に応援していきたい。
「言葉遣い」について「できていない」が0%であることが素晴らしい。あいさつはみんなと一緒にできるが一人ではいざというところにとどまっている。	家庭で、朝いばおはようの挨拶が交わされているか、子どもにありがとと言っているか、愛情を持った言葉かけができているか、確かめていくことから始めていきたい。
自分から積極的にあいさつしたり、話しかけたりできる力というのは、社会から求められる力であるが、小規模校の中ではなかなか身に付きにくいこともある。	あいさつから様々な会話に広がりが、仲間作りができるのだという経験を積んでいくことが求められる。地域にとどまらず、様々な人々と交流させていきたい。
スマートフォンや携帯・ゲームについては、自分の部屋で使用したり親の目の届かないところで使用したりすると危険信号です。子どもの朝の過ごし方は大切ですね。	家庭に對し子ども達を取り囲む現状を周知していく必要がある。携帯などの使用についてのルール作りが必要かと思われる。
安全についての学校の取組は十分できていると思う。むしろ、家庭や地域が子どもの安全をどのように守るのかということについて、真剣に考えなければならないと思う。	交通量の激しい国道に面した学校であり、地域・PTA・見守りボランティアの協力も不可欠である。ただし高齢化していることもあり、これからのことを考えたときに若い世代にそのようなボランティアができるように働きかけたい。
学校と親との連携は大切ですが、相互の関係を築く方法を工夫する時代が来たのかもしれない。地域の方の貢献を子どもたちが知っているのか不安でもある。	学校と担任との信頼関係の構築が大切だ。その信頼関係づくりを地域が役に立てようなどとしていきたい。また、小中の普段からの連携の様子を保護者がわかるような発信も必要だ。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・すべての教科での、子どもが達成感や充実感を味わう言語活動の充実 ・京都府スタンダードをもとにした授業計画の充実 ・道徳の時間の学習に中心にした授業研究・めあて・発問・板書・ふりかえりの習慣化と充実	アンケート「話す・聞く・書く・読む」活動のようす アンケート「学習の見通し」 全国学力学習状況調査・ジョイントプログラムの結果分析
	家庭学習の習慣科	・学習予定表の充実 ・帯タイム・読書タイムの充実 ・家庭訪問などによる個別の働きかけ ・読書指導の充実	保護者アンケート「家庭学習の様子」教職員アンケート「家庭学習への働きかけ」子ども達の家庭学習や帯タイムでの学習の姿容
	授業のユニバーサルデザイン化	・授業公開をとまなうユニバーサルデザインの実践研究 ・相互に授業公開・教室後悔するなどの学校現場における	児童アンケート「学習はよくわかっていくか」教職員アンケート「ユニバーサルデザインの実践」学級経営・教室や授業公開の様子
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・協働活動によるたてわり活動の充実 ・子どもの道徳性を引き出し広げる道徳の時間 ・道徳性の伸長を図る取組(掲示物・ハートフル集会) ・子どもに範を示す働きかけ	児童・保護者アンケート「社会のマナーや学校のきまり」 教職員アンケート「子どもたちの言葉遣い」たてわり活動についての反省
	みんなが楽しく過ごせる学級づくり	一人一人を大切に、学級経営の充実 学級の様子についての報告連絡相談の励行 クラスマネージメントシートやいじめアンケートの結果を活用した授業	クラスマネージメントシート・いじめアンケートの結果 アンケート「学校は楽しいですか」「誰とでも仲良く過ごしていますか」「友達への注意」
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・早寝・早起き・朝ごはんをはじめとする基本的生活習慣の確立 保健だよりなどの情報発信を通した家庭への働きかけ 生活リズム調べ 個に応じた健康相談	児童アンケート「早寝早起き朝ごはん」保護者アンケート「家庭での生活習慣」生活リズム調べ「早寝・早起き・朝ごはん」
	安全指導の充実	・登下校の安全指導の徹底 ・集団登校・町別さ集会についての指導 ・教職員による見守り ・学校からの情報発信	児童アンケート「家の外での安全」教職員アンケート「安全についての環境整備」安全な生活の指導 集団登校・下校の様子
独自の項目	小中一貫教育の推進	・管理職・教務主任を中心とした連携会の実施 ・小中連携に基づく授業研の実施 ・小中で共通の学校運営協議会・PTA組織 ・各校務分掌同士の連携	保護者アンケート「中学校との連携」「自由記述欄」PTA運営委員会や学校運営協議会での意見 中学校の学校評価結果



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月27日
評価者・組織		
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
教職員アンケート「言語活動の充実」「学習の見通し」実現度92% ジョイントプログラムでの6年生では学力の向上が見られるが、5年生では学力が停滞気味である。	学習の中にグループやペアで話し合う場面を取り入れたり、考えたり話し合ったりしたことを全体に表現したりする活動を取り入れてきたところ、より深く広く物事を考えられるようになりつつある。5年生では、漢字を正しく書くとスキルを要する学習に伸長が見られた。	小グループでの話し合い活動をすべての教科・領域で実施できるようにし、子ども自身が問題解決に乗り出すことが出来る学習過程を大切にす。また、考えたことを表現することにも力を注ぎ、多様で効果的な表現の仕方ができるようにする。
保護者アンケート家庭学習の様子「重要である68.0%」できている49.5% 学習予定表でほぼすべての学年で自主学習の成果を記述している。	学校の中で自主学習の方法を指導し、家庭での自主学習のようすを紹介してきたことにより、重要度・実現度ともに向上している。実現度のほうは二極化が進みつつあり、出来ないという回答している家庭についての働きかけが課題である。	保護者にも子ども達にも、家庭での自主学習の重要性と学習の仕方をお知らせすることを行。また、できにくい子に対して個別の課題をしっかりと把握できるようにするなどして、自主学習に意欲的になれるように働きかけを行う。
児童アンケート「学習はよくわかっていくか」低学年95.6%「できている」高学年84.6%「できている」前期よりも「できている」と回答している子が増加している	一時間の学習過程に「めあての提示」と「ふりかえり」を徹底したことで、わかりやすい指示・発問、板書の工夫を徹底した成果が表れつつある。さらに研修を深め、すべての子どもたちが授業に参加し達成感を味わうことが出来るようにしたい。	来年度2年生に車いすの使用を要する子を迎える。その合理的配慮を職員全体が目度確めていくことで、授業のユニバーサルデザイン化についての認識を深め、すべての学級でユニバーサルデザイン化を実施することが出来るようになる。
保護者アンケート「社会のマナーや学校のきまり」重要である99% よくできている13.5%できている80.2% 教職員アンケート「言葉遣い」大体出来ている55.6%	社会のマナーや学校のきまりを守ることについてのしつけは重要であると保護者は捉えてはいるが、「よくできている」とは言いにくい様子がかがえる。言葉遣いは前期に比べ教職員の「できている」という回答が増えている。	道徳の時間の学習を充実するにとどまらず、日常の道徳性の指導に力を使う。出来ていることを広げることが出来るようにする。特に、時間を守ることについては徹底して指導するようにしていく。
高学年アンケート「学校は楽しいですか」「できている」が99%を上回っている。クラスマネージメントシートでは、子ども同士の関係や子どもと担任との関係が良好であることがうかがえる	個々には様々な悩みを抱えている子も見られるが、学校が安らぎの場になっていることと分析できる。子どもの悩みをしっかりと受け止めて解決の方向に向かう取組が成果を上げている。	学級の問題を職員全体で受け止めて、職員の連携のもとに解決していくような組織づくりを継続して行っていく。担任と子どもが休み時間にもかかわれるようなタイムマネージメントも図る。
「朝ごはん」できている低学年95.5% 高学年89% 「早寝・早起き」できている低学年61.9% 高学年44.6% 生活リズム調べでも早寝早起きに課題が残る	ほぼ毎回同じような傾向がみられる。朝ごはんについては食べていない子が少数ながら見られることに働きかけが必要になる。早寝早起きは家庭との協力体制で解決する必要がある。	朝ごはんを食べていないと回答している子に対する個別の過程への働きかけを継続して行っていく。また、学校だよりや懇談会などを通して、早寝早起きの問題解決への働きかけを行う。
保護者アンケート「不審者対応・災害発生時の対策」重要である99% よくできている23.7% できている57.7%	特に地震や土砂災害発生時の時にどのような対策をとるのかについて十分整備できていない。小中一緒に避難したり引き渡しをともなう訓練が必要である。	大きな災害が発生した時を想定して、小中合同の避難訓練を行ったり、引き渡し訓練を行ったりする。また、土砂災害発生時の対応マニュアルを策定する。
保護者アンケート「小中連携」重要である87.8% よくできている20.6% できている66.0% あまりできていない12.4% できていない1%	高雄中学校とは一小一中の関係にあり、連携した取組が求められている。しかしながら、その実現度は高いとは言えない。小中どのように連携を進めていくのかを考察し、実施する必要がある。	新指導要領の実施を契機に、小中で授業を交換して実施したりする。また、部活動での連携をさらに深め、小中の教員と一緒に部活動を指導できるようにする。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月2日
評価者(いづれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	○学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
子どもの学力を保障するためには、授業改善とともに、スキル学習や家庭学習の充実も図っていかねばならない。土曜学習についても、アンケートの中にさらなる充実を求める声もあり、地域の方との協力のもと、習字・英語など新たな内容も検討していきたい。	
より安全に体力の伸長を図るため、体育館で事故が起きることがないように、体育館シューズの導入や校舎内完全二足制を実施できるようにしていきたい。	
高雄には様々な地域の行事があり、また、国宝や文化財、自然環境など、子どもの豊かな心を育てるのにふさわしい素材がある。それを教材化し、高雄のよさをしっかりとらえ、自分から進んで地域に働きかけたり、地域に貢献したりできる子どもを育てたい教育課程を編成したい。	
国道162号線の工事に伴う通学路の変更は必要だが、あまりに遠回りになったり、地域の人の生活を制限したりすることがないように配慮が必要だろう。土砂災害については、この地域や学校が危険なところにあるということ十分に認識する必要がある。ただし、法律に不備なところもあり、もう少し静観したい。また、土砂災害が起きそうときには前もって警報が出るので、落ち着いて行動したい。	
来年度は小中ともに児童数・生徒数の増加が見込まれているが、6年後には中学校は50人より人数が減る。それに向けての対策をとる必要がある。	
小さい学校ならではの取組をさらにアピールすることで、高雄校の魅力を発信できるようにしていきたい。	

3 総括・次年度の課題

新指導要領の完全実施に備え、学校評価の結果をもとに、教育課程の再編成や教育環境の改善を図ってきたい。英語の時間を確保するために、木曜日の6時間目の授業時間の設定をすると同時に、学習内容についても、地域のよさを子どもたちが実感し、それを発信したり、地域に働きかけたりできる子どもを育てていくものとしたい。また、学校行事についても、時間数の見直しを図るとともに、その内容についても再検討したい。学習発表会を地域について学んだ総合的な学習の時間(わくわくタイム)の発信の場にしたり、運動会を午前中で切り上げたりすることも計画していきたい。高雄中学校とは、一小一中の関係であり、連携と交流を深めていくことによって、よりよい学習ができるようにしていきたい。